

どきどきわくわくする教育活動を目指して

～チーム松江で取り組む「あなたもわたしも大切な一人」～

本校では、「㊦なぶ子（学力向上）」「㊧よい子（体力向上）」「㊨がお（健全育成）」「㊩show（開かれた学校）」を基本とし、「生きる力」を育む教育の達成のために、心身ともに健康で知性と感性に富み、身近な地域を愛する心、地域に貢献する心と国際感覚をもった児童の育成を目指し、教育活動を展開している。

開校150周年を迎えることを誇りにもち、これまでの歴史と伝統を受け継ぎながら、未来を目指す松江小学校として、日々の学校生活において多くのよき学びができるよう、教育活動の柱を「どきどきわくわくする教育活動」とする。そして、児童一人一人が「できた」「分かった」の喜びを十分実感し、自分のよさを認め、他人を思いやる心をもった「あなたもわたしも大切な一人」を目指した学校を創っていく。

1 児童育成の基本的な考え方

(1) 一人一人を大切にされた教育の推進

すべての教職員、児童が人権尊重の理念を正しく理解し、互いの人格を尊重し合う教育活動を行う。そのためには、次の点に取り組む。

- ① 児童の呼称を「さん、くん」で統一し、一人一人の人格を尊重する。
- ② 毎朝、教室で児童を迎え、児童一人一人へ挨拶の声掛けを行う。
- ③ 朝の会にて、児童一人一人の呼名を行い、児童の健康状況や様子を十分に観察する。
- ④ 児童の言動等に対して肯定的な言葉掛けを行い、共感的で見通しのもてる指導を行う。
- ⑤ 児童が授業において発言するときは、「はい、立つ、です。」を基本とし、自分の思いや考えを堂々と話せる子供を育てる。

(2) 認め、励まし、自信をもたせる教育の推進

児童一人一人が「今日の日も、楽しかった。」「明日の学校が楽しみだ。」と思えるよう、困難なことにくじけず、自信と意欲をもって生きていくためのたくましさを根付かせたい。そのためには、次の点に取り組む。

- ① 教師や友達から、認められる場や褒められる場を多く設定する。自分のよさを自ら認識する機会を設定し、自分に対する自信をもたせる指導を行う。
- ② 「わかった」「できた」という達成感や、成功体験を一人一人に実感させる。困難な課題にチャレンジして失敗した場合は、その子の心に優しく寄り添う支援でリカバリーする。
- ③ 特別な配慮を要する児童や、特別支援学級（わかば学級）の児童に対して、児童の側に立って寄り添い、自信をもたせ、明るく学校生活を過ごせるよう指導を行う。

2 「㊦なぶ子」（確かな学力の定着を目指して）

児童一人一人に確かな学力を身に付けさせるとともに、主体的・対話的な学習を目指した授業改善を行うために、次の点に取り組む。

(1) 45分間（1単位時間）を大切にする授業

45分間の授業の中で、児童が受け身にならず思考や葛藤する場面を取り入れる授業を行う。そして、児童が「わかった！できた！」ことが一つでも多くできる授業を目指す。

(2) できたことをほめ、できないことに手を差し伸べる授業

子供たちが、できたことや身に付いたことを認め褒めることで、考える喜びを実感させる。できないことには、どのようにすればできるのか手を差し伸べ、一人一人に確かな学力を身に付けさせる。

(3) ねらいを明確にし、児童自身が評価できる授業

45分間の授業でねらいを明確にし、児童にしっかりと示して授業を行う。児童が、ねらいに対して、何を考え、何を解決するのか見通しをもって取り組むことで、何がわかったのか、何を考えたのか、児童自身とともに教師もリフレクションを行い、自己調整学習の力を培う。

(4) 「好き」を育み、「得意」を伸ばすことを目指した授業

校内研究において、「自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手の育成」を目指し、すべての教育活動を通して、児童が意欲的に課題解決に取り組み、「探究」をテーマに教員同士が積極的に授業公開を行う。また、授業だけでなく、「プラスワン学習」など、児童が興味関心をもって学習へ取り組む手だてを施し、児童自らが学ぶ意欲と学習の確立を目指して取り組む。

(5) 創意工夫を図った、児童にとって学びの多い授業

I C T機器を十分に活用したり、プログラミング的思考を目指した展開を図ったりすることで、知識だけでない学びの多い授業を目指す。一人1台のタブレット機器を十分に活用し、個別最適な学びと双方向の対話型な学びの実践を通して、児童の思考力・判断力・表現力を深めるG I G Aスクールを目指す。教科担任制実施による、教科指導の充実とともに複数の視点で児童の学びを支援する体制を構築する。

(6) 学力向上を目指した、児童自らが解決できる授業

学力向上を図るために、「江戸川区スタンダード(国語・算数)」を効果的に活用して、児童自らが解決できる場面を多く設定する。基礎学力の定着を図るために、反復学習や「YOMUよむワークシート、ドリルパーク」など、積極的に取り入れ、学力調査の数値を段階的に高めていくよう、学校全体で取り組む。

(7) 学力調査結果を活用した授業

全国学力・学習状況調査の実施に際し、昨年度の問題に取り組ませるなどして、児童が日常の学習の成果を発揮できるようにする。江戸川学力の日に実施する、区独自の学習調査を効果的に活用し、児童の学力の傾向と課題を分析し、日常の授業やパワーアップタイムなど、学力向上を図るよう取り組む。

(8) 躊躇なく話せる英語を目指した取組

江戸川区の方針の一つである躊躇なく話せる英語を目指した取組の具現化を目指し、外国語・外国語活動の授業の質を高める研修を実施する。また、学期1回の「イングリッシュウイーク」を設定し、児童自ら英語に慣れ親しむ環境づくりを行う。

3 「○よい子」(心身ともに健康な体を育むことを目指して)

児童一人一人が心身ともに健康であることを目指すとともに、体力向上とレガシーを創造する教育を推進するために、次の点に取り組む。

(1) 健康な体を育むための日常的な取組

朝の健康観察を通して、児童の様子や変化を把握するとともに、日常の生活リズムが整う指導を行い、「早寝・早起き・朝ごはん」の励行を推進する。また、保健指導を柱とし、感染症等の予防や免疫づくりに取り組むことで、自身の健康づくりに対して積極的に取り組む。

(2) 体育の授業の充実

体育の授業においては、自らの体力の現状を把握させ、児童が運動する楽しさを感じつつ、十分な運動量が確保できる授業を展開する。

(3) 体力テストの効果的な活用

6月に実施する体力テストの実施方法を教師も児童も事前に十分把握し、測定方法を明確にして取り組む。結果を踏まえ、成果と課題を分析し、体育科の授業や体育的取組に反映させ、体力向上を目指す。

(4) 「江戸川っ子なわとびチャレンジウイーク」の効果的な活用

「江戸川っ子なわとびチャレンジウイーク」を効果的に活用し、短なわの練習機会を増やし体力の増進を目指す。また、長なわチャレンジに取り組み、目標に向かって友達同士で高め合う喜びを感じさせるとともに、体力の増進を目指す。

(5) アスリートやスポーツとの出会い

アスリートやスポーツと出会う機会を設け、スポーツに対する関心を高め、様々な競技と出会うことで、スポーツの楽しさや目標に向かって努力する姿勢をもたせる。「2020東京大会」をレガシーとして積極的にスポーツと出会う素晴らしさを実感させる。特に、パラアスリートとの出会い、パラ競技の積極的な情報提供を行い、スポーツを通しての感動と人としての生き方を学ぶ機会とする。また、日本の伝統文化や国際文化の理解の促進を図るための取組を積極的に取り入れる。

4 「**あ**がお」（豊かな心と人を大切にすることを育むことを目指して）

(1) あいさつと笑顔のあふれる学校

「礼に始まり礼に終わる」と言われるように、教職員も児童も様々な場でのあいさつを励行する。月1回の「あいさつデー」、学期1回の「あいさつ週間」など、全校で取り組む機会を設けるなど、教職員も児童も笑顔あふれる学校を目指し、思いやりの心と温かな言葉掛けを実践する。

(2) 言語環境を整えた学校

教師が率先して、正しい言語環境を整え、児童に時や場、相手に応じた言葉遣いができるよう指導する。児童同士の言葉遣いも、思いやりをもった言葉掛けができるよう取り組む。

(3) ルールやマナー守る学校

松江スタンダードを柱に、学校生活、校外生活におけるルールやマナーを徹底する指導を行う。月初めには、松江スタンダードを各学級で確認し、自らの生活を見直す機会を設定する。生活指導に係る案件については、校内で情報交換・共通理解を徹底し、迅速に対応することで、児童の健全育成を図る。

(4) いじめ・暴力の根絶を目指した学校

いじめ・暴力はいかなる理由があろうと、絶対に許さないことを教職員はもちろんすべての児童が認識できるよう、毅然とした態度で臨む。学期1回のいじめに係る授業を実施するとともに、6月に授業を公開し、保護者・地域とともにいじめ根絶を目指す。不登校や不登校傾向の児童へ寄り添い、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、外部機関と連携を図り、すべての児童が居場所のあることを認識させ、安心した学校生活を過ごすことができるよう取り組む。

(5) 自分の思いを言葉に出せる学校

日常の授業において、自分の思いや考えを声に出して発表する場を多く設定し、言葉を声に出すことで、自己肯定感を高める教育を目指す。また、音読や群読など、学級だけでなく全校集会などで声に出す機会を設定し、言葉のもつ響きの心地よさや美しさを実感させる。

(6) 人と関わり奉仕する心を育む学校

人と関わることを意識的に取り入れ、人の生き方や考え方から学ぶ機会を設定していく。また、自らが取り組める奉仕活動を行い、人と関わる素晴らしさを実感させる。

(7) 感性を豊かに育てる学校

歌や音楽、ダンス、読書、本の読み聞かせや朗読・音読・暗誦など、子供たちの感性を豊かにする環境を設定する。地域や外部人材などのゲストティーチャーや児童が実際に見たり聞いたり体験したりできる校外学習等、積極的に取り入れ、本物に出合う機会を取り入れる。

(8) 歌や音楽などに触れ合える学校

たくさんの歌や音楽との出会いから、児童が「歌いたい、聴きたい。演奏したい。」と感性を育む教育を推進する。今月の歌、音楽集会、校内放送の充実、ブラスバンドの演奏、地域行事へ出演など、たくさんの音楽に触れ合う場を設定する。

(9) 道徳の時間を大切にしている学校

週1回の特別な教科「道徳」の時間を確実に実施し、児童の心情を深める授業展開を行い、学校全体で道徳教育に取り組む。道徳授業公開講座や、道徳の時間の授業公開を積極的に行い、児童が様々なことを自分のこととして考える機会を設定する。

(10) 地域を愛する心をもつ学校

地域を愛し、学校を愛する児童を育てるために、地域をフィールドとして学ぶ学習、地域の人々から学ぶ学習、地域の歴史や伝統に触れる学習を推進する。また、積極的に地域行事や、PTA活動に関与（地域貢献）することで、地域・保護者の方々と一体感をもって児童を育てる。

5 ①show（開かれた学校を目指して）

(1) 開校150周年を迎えることへの矜持

江戸川区内で最も歴史ある小学校として、開校150周年を迎える年であることを誇りにもち、歴史と伝統を受け継ぎつつ、未来に向けた新しい学校を目指して邁進する。11月に実施する「開校150周年を祝う日」は、学校公開を実施し、児童だけでなく保護者・地域とともに集会などの取組とする。開校150周年記念式典は、江戸川区内で最も歴史ある学校としての矜持をもって、本校に携わるすべての方々と祝う日とする。

(2) 保護者・地域と相互の関係を構築

月1回、保護者が学校へ来る機会を設定し、児童の学校生活の様子を見てもらったり、学級担任とコミュニケーションを図ってもらったりして、相互理解を図っていく。学校ホームページを活用し、学校生活の様子や学校の情報を適宜発信することで、保護者・地域との相互理解を目指して取り組む。スポーツフェス、オータムアートフェスなど、学校行事の内容を充実させるとともに、広く公開することで、児童の活躍とともに、本校の学校教育への理解を図っていく。

(3) アフター&ウィズコロナウイルス対応

新型コロナウイルス対応として取り組んできたことを無駄にすることなく、立ち止まるのではなく、この状況だからこそできること、やるべきことは何かを考えて取り組んできた。教師も子供も「できない」から「今できること」を目指してきたことを継続していく。それとともに、自らの健康について改めて考える機会とし、心も体も健康であってこそその日常であることに喜びをもって過ごすよう取り組む。

6 教師の働き方改革を目指して

教師自身が、これまでの職務や取組を振り返り、児童にとって必要な教育を目指し、次の点に取り組む。

(1) 費用対効果を考えた教育活動

一つの事業や取組を行うにあたって、どれだけの費用（予算）が使われているのか考えて取り組む。そして、その費用に見合う教育効果が発揮されているのか検証し、児童のためになっているのか常に意識していく。

(2) スクラップアンドビルド

新しい事業や取組を行うにあたって、必要であるかどうか精査する。新しく取り組む際には、必要でない事業や取組をスクラップしていく必要がある。大胆かつ慎重に事業や取組を見直していくことで、能率的かつ効率的な職務の実現を図る。特に、アフター&ウィズコロナとして、元に戻すことと創意工夫を図り改善できることを十分に考えて、行事や取組の精選を行っていく。

(3) ワークライフバランス

教師自身が、心も身体も健康でなければよい教育はできない。時には、教師自身のリフレッシュや自分の余暇を楽しむ余裕をもったり、家族とともに過ごしたりすることで、明日の職務への活力につなげていきたい。時間を効率的に使い、年次有給休暇の積極的な取得とともに、月当たりの勤務超過時間4.5時間を超えてはならない。定時退庁日（松江プレミアムデー）を設定し、教師自身が余暇を楽しむ機会を設定する。また、男性教員の積極的な子育て支援ができる学校体制を構築していく。

(4) 教育公務員としての自覚

勤務時間内はもちろん、勤務時間後も教育公務員であることの自覚を忘れずに品位ある言動を心掛ける。ハラスメントの根絶、個人情報への徹底した管理、体罰の厳禁等、服務事故を絶対に起こさない強い決意をもち、教職員同士が互いに支え合い、節度ある社会人としての助け合いを行うことで、本校への信頼を高めていく。

7 生命の尊さ「命」の重みを改めて考える

本校の教育の柱である「あなたもわたしも大切な一人」は、一人一人の生命を尊重する教育である。昨今の、自然災害の脅威、生命を脅かす様々な事象、そして新型コロナウイルスをはじめとする感染症対応など、改めて「命」の重みを考える日々となっている。すべての「命」の重みを実感し、生命の尊さを考える機会を多く設定する。

(1) 防災教育の推進

避難訓練の実践的取組、訓練実施後の事後指導、総合的な学習の時間における防災プロジェクトなどを通して、防災意識の啓発に取り組む。避難所開設訓練を実施し、緊急時における防災拠点としての迅速な対応を行えるよう努める。東日本大震災発災日である3月11日には、「3.11集会」を実施し、東日本大震災について語り継ぐとともに、犠牲になられた方々への哀悼の意を表する機会を設定し、記憶を継承していくとともに、自然災害の脅威を語り継いでいく。

(2) SDGsの推進

持続可能な開発目標（SDGs : Sustainable Development Goals）17のゴール・169のターゲットから学校教育における積極的な取組を実施し、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓い、共生社会の実現に向けて実践する子供を育てるとともに、一人一人の生命の尊さを「命」の重みを考えさせる機会とする。